

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 11 月 12 日 (2020.11.12)

【公開番号】特開 2019-63139 (P2019-63139A)

【公開日】平成 31 年 4 月 25 日 (2019.4.25)

【年通号数】公開・登録公報 2019-016

【出願番号】特願 2017-190050 (P2017-190050)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 9 月 29 日 (2020.9.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

正面から見て遊技機枠の右側に配された右側可動体、及び、前記遊技機枠の左側に配された左側可動体と、

前記遊技機枠の上部に配された可動装飾体と、
演出を制御可能な演出制御手段と、を備え、

前記右側可動体および前記左側可動体は、所定の閉状態と所定の開状態とをとることが可能であり、

前記演出制御手段は、

前記可動装飾体を所定の初期位置から当該初期位置よりも上方の移動位置に移動させる第 1 の可動演出と、

前記右側可動体と前記左側可動体とを共に前記閉状態から前記開状態に変化させる第 2 の可動演出と、を実行可能であり、

前記可動装飾体が前記移動位置に位置するとともに、前記右側可動体および前記左側可動体が共に前記開状態をとることがあることを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の遊技機であって、

前記右側可動体および前記左側可動体が共に前記開状態であるときの前記遊技機枠の左右方向の幅寸法は、前記右側可動体および前記左側可動体が共に前記閉状態であるときの前記遊技機枠の左右方向の幅寸法よりも長いことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

下記特許文献 1 に記載の遊技機では、遊技に際して、可動部を動作させる可動演出を行う。具体的にはこの文献に記載の遊技機では、前扉の上部に、演出用の可動部が配されている。演出用の可動部は、マンホールを模した収納部から人形を飛び出させるものである

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

【特許文献 1】特開 2004 - 16722 号公報

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

しかしながら上記した遊技機には、可動演出の演出効果を向上させるため、さらなる改良の余地がある。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

本発明は上記事情に鑑みてなされたものである。すなわちその課題は、可動演出の演出効果を向上させることである。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

本発明の遊技機は、

正面から見て遊技機枠の右側に配された右側可動体、及び、前記遊技機枠の左側に配された左側可動体と、

前記遊技機枠の上部に配された可動装飾体と、

演出を制御可能な演出制御手段と、を備え、

前記右側可動体および前記左側可動体は、所定の閉状態と所定の開状態とをとることが可能であり、

前記演出制御手段は、

前記可動装飾体を所定の初期位置から当該初期位置よりも上方の移動位置に移動させる第 1 の可動演出と、

前記右側可動体と前記左側可動体とを共に前記閉状態から前記開状態に変化させる第 2 の可動演出と、を実行可能であり、

前記可動装飾体が前記移動位置に位置するとともに、前記右側可動体および前記左側可動体が共に前記開状態をとることがあることを特徴とする遊技機である。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明によれば、可動演出の演出効果を向上可能である。